

国際シンポジウム “持続可能な漁業認証制度の構築に向けて”

日時：2017年2月3日（金）10:00-17:00（レセプション 17:30～）
場所：東京大学弥生キャンパスフードサイエンス棟中島董一郎記念ホール
(<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>)
主催：東京大学大学院農学生命科学研究科国際水産開発学研究室
東京大学海洋アライアンス
後援：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
助成：日本財団

開催趣旨：

本シンポジウムは、水産エコラベル及び持続可能な漁業の認証制度について、その第一線で活躍する国内外の専門家や関係者を一同に集め、今後の展望について議論を行うものである。特に、これまで主流であった、単一の基準を世界各国の漁業に適用する“one-size-fits-for-all”的なアプローチの限界が指摘されるようになり、各々の漁業を取り巻く事情や多様性を考慮した地域発の漁業認証スキームが台頭してきている中、特に、多様な漁業資源を有し、生業的かつ零細小規模漁業者の多い日本を含むアジア各国の動きにフォーカスし、漁業認証の現状と課題、そして今後の展望について様々な立場から意見交換を行う。

参加申し込み：

シンポジウムへの参加をご希望の方は、1月31日（火）までに事務局 (u.tokyo.suisan@gmail.com)宛に、①お名前、②ご所属、③ご連絡先（Eメールアドレス）、④レセプションへの参加の有無（会費 3,000 円）をお知らせください。定員になり次第、募集を締め切らせて頂きます。

※同時通訳付

プログラム	
10:00-10:10	開会挨拶（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授 八木信行氏）
セッション1： 水産エコラベルの国際的な潮流：地域版エコラベルの台頭と国際的な基準設定	
10:10-10:40	グローバル・サステイナブル・シーフード・イニシアティブ（GSSI）： 水産物の持続可能性普及のための国際パートナーシップ ハーマン・ヴィッセ氏（GSSI 事務局事務局長）

10:40-11:10	適切に管理された漁業の認証：持続可能性は自発的な取組みから クリスチャン・ソラリンセン氏（アイスランド責任ある漁業 アドバイザー）
11:10-11:40	単一産地認証エコラベルの信頼の選択肢「アラスカの責任ある漁業管理認証プログラム」 ハナ・リンドフ氏（アラスカシーフードマーケティング協会 国際マーケティングプログラムディレクター）
11:40-12:10	日本における漁業管理：法的枠組みと制度的な特徴 八木信行氏（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
12:10-12:40	北海道におけるシロザケの放流事業と資源管理 宮腰靖之氏（北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場 さけます資源部部長）
昼食 (12:40-13:40)	
セッション2：国際基準を適用していく上での課題：“one-size-fits-all”的なアプローチは妥当なのか？	
13:40-14:10	漁業認証を持続可能なものへ アラスター・マクファーレン氏（国際水産団体連合事務局長）
14:10-14:40	ASEAN 諸国の小規模漁業のための認証スキーム開発に向けて リオン・ソーパ氏（東京大学大学院農学生命科学研究科特任研究員）
14:40-15:10	台湾における水産エコラベル・アプローチの広がり 黄向文氏（国立台湾海洋大学教授）
15:10-15:40	“Small is Beautiful” - エコラベルと小規模漁業 イングリッド・ケリング氏（国際一本釣財団マーケット・アウトリーチ・ディレクター、元経済協力開発機構（OECD））
休憩 (15:40-16:00)	
16:00-16:50	総合討論
16:50-17:00	閉会挨拶（(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会会長 垣添直也氏）
レセプション (17:30 -)	